



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と  
男女平等参画社会の形成と促進のために

# WAVE 第24号

発行日：令和5年6月1日  
発行：特定非営利活動法人  
M・I・T・O 21  
〒310-0851 水戸市千波 508-34  
発行責任者：黒澤輝子

## 令和5年度を迎えて 副理事長 兼子 千恵子



シンポジウム会場で

2019年から世界中を不安と困難に陥れた新型コロナウイルスが、本年5月8日より第5類相当の感染症の位置になることに伴い、日常も やっと落ち着きを取り戻す方向に向かうのではないかとされています。

この3年間で、私たちの活動も一堂に会することの難しさや、日常を制限されることによる個々人の意欲の低下などで、厳しい状況にありました。私たちが体験した記憶の中でこのような不自由な日々は初めてのことでした。

そのような状況下でも、ヒューマンライフシンポジウムは、広い地域・年代の参加者をと、時代の流れとしての開催方向を考慮した結果、昨年同様オンライン配信の形をとり企画開催されました。

茨城大学・常磐大学の協力も得て、若者を巻き込んだ新しい形のシンポジウムになったことはひとつの前進ととらえても良いのではと思われます。

当日は、ゲストにフリージャーナリストの安田菜津紀さんを迎え、「共に生きるとはなにか一難民の声、家族の歴史から考えた多様性」と題し、多様な生き方や、またロシアによるウクライナ攻撃を目の当たりにされた生々しい現状などをご講演いただきました。若い世代の参加者が目立ち、参加者は会場90人、配信で183人となりました。会員の皆様には当日の関わりがなく、距離を感じられた方もおられたかもしれません。大変心苦しく思っています。しかし今後はこのような形式が主流となっていくと思われますが、引き続きご協力をお願いいたします。

令和4年度も前年に続きコロナ禍で会員相互のふれあいの場を持つことが厳しい状態でしたが、落ち着きを見せてきた後半には、梅まつり前の偕楽園を歩き、好文亭内に設置されたカフェを見学しました。また2月下旬には、山口やちゑ前歴史館長のご厚意により県立歴史館特別企画展「鹿島と香取」に併せ、清真学園・鹿島神宮見学などを実施し交流することができました。

コロナ収束に向かい、新たな活動の開始となります。次年度に向けて新しい企画を模索中です。皆様のアイデアをお待ちしております。どうぞ皆様の一層のご支援ご協力をお願いします

| 目次                       |     |
|--------------------------|-----|
| 1, ごあいさつ・・・・・・・・・・       | 1 頁 |
| 2, 鹿嶋市清真学園 & 鹿島神宮を訪ねて・・  | 2 頁 |
| 3, 偕楽園散策・水戸黄門料理まつり・・     | 3 頁 |
| 4, 新水戸市民会館、人生100年・編集後記・・ | 4 頁 |

## ◇鹿嶋方面 日帰り研修◇

令和5年2月27日(月)



山口理事長の執務室で、お話を聞く

コロナ禍でスティホームも3年目、  
そろそろ外に出かけて気分転換、  
新たな年に鹿島詣で  
M・I・T・O 21も明るい未来を  
描きたく思い、日帰りのバス研修を  
実施しました。

昨年春まで茨城県立歴史館館長を務められた山口やちゑさんの新任地、鹿嶋市中央にある学校法人清真学園中等高等学校を訪問、応接室ではお茶とお菓子でもてなしてくれました。M・I・T・O 21で思い出深いのは、10周年の記念事業で歴史館の大会議室で講演をいただいたこと、茨城県に奉職されて高校教員から保健福祉部の介護保険導入時から高齢福祉課、桜の郷開発や秘書課長、前知事の4期目から知事公室長、保健福祉部長と教職には戻らず、行政職の女性ではトップを走り続けてきた山口理事長は今、学園運営と次世代を育てる使命をいきいきと話されました。歴史館館長の時には暗いイメージを明るい壁の色に変え、池の水を光り輝く流れにして、カフェを開くというアイデアに富んだ手腕を発揮されてます。

## ◆鹿島神宮◆

今春、鹿島と香取の特別展を県立歴史館で開催中であることから、鹿島文化研究所の大津所長が神社の参拝を案内して下さいました。

本殿までの参道も解説付きの案内で見ごたえのある鳥居をくぐり、神社の杜を歩き、宝物の数々を説明いただいて、ご神体を祀る本殿では一番近いところで手を合わせてなど、今まで知らなかった経験をすることができました。



鹿島神宮いよいよ参拝へ

広い神社の森には、先ほど訪問した清真学園の生徒が野外学習か、仲良しが連れだってとか、いろいろなグループですれ違い、挨拶をしていく生徒や、恥ずかしそうに行ってしまう子、しっかり手を合わせて祈る子ども達、神社の厳かな雰囲気と学生の声の明るさが、明るい未来を指し示している「清真の思い」をそこに見たような気がしました。

記：楢崎ひろ子





## 偕楽園散策



令和5年2月6日(月)



早咲きの紅梅

ちょっと寒い日の午後でしたが、偕楽園の観梅デーの始まるひと足先に、梅林を楽しみに出かけました。入園料は年齢確認で無料、年齢はご想像に!!

東門を入り、早咲きの紅梅・白梅が咲き、梅の香が漂う中を美しさに惹かれながら、好文亭まで散策しました。

好文亭では斉昭公が文人墨客や家臣、領内の人々の慰安を催していた創意工夫を感じながら三階の楽寿楼に上がると、眼下に広がる千波湖・田鶴鳴梅林と雄大な景観、

斉昭公はこの景色を愛したのでしょうか! そう思いながらくつろいだカフェの一杯のコーヒーは最高でした。

地元に居てもなかなか行けない偕楽園、好文亭、一日かけてゆっくり散策も良いものです。素敵な催しに参加させていただきました。

一般参加 小島きみ子



楽カフェではこんなおもてなしも!!!

令和5年3月10日(金)

## 一水戸黄門料理まつりー

恒例の「水戸の日」主催:水戸商工会議所 場所:三の丸ホテル  
～黄門料理と食談のタベ～「黄門料理は江戸時代のガストロノミー」  
講師は日立市生まれ・イタリアンシェフ神保佳永(じんぼよしなが)氏

東京エコーキュルネール国立フランス料理専門カレッジを経て、フランス・イタリアのミシュラン付きのレストランで修業された。2010年東京南青山にレストラン JINBO MINAMI AOYAMA をオープン、野菜を多く取り入れ、美容や健康面を考えた数々のレシピを生み出し、メディアや雑誌にも取り上げられ「野菜の魔術師」と称される。



梅の枝に花の薫り!!



神保氏を囲んで

その料理と美味しさは、予約の取れないレストランと紹介される。神保氏の料理のモットーは「すべては畑にあり」といい、全国各地での講演では、日本の食文化の未来を考える活動や、都内小学校の子どもたちに独自の食育活動として、県内の農村での体験を通して食の環境を伝えている。江南所無の梅のテーブルの一期一会はマスクを外し、満足したタベでした。(H.U)

## 新市民会館オープン MitoriO 地区整備も大詰め

2011 年の東日本大震災から解体を余儀なくされた水戸市民会館、12 年目にやっとひと・まち・文化の交流する拠点施設が誕生した。

5 月 26、27 日と 6 月 4 日に内覧できるプレオープン Day が開かれた。

エントランスロビーではこれから行われる公演のポスターが並び、受付の始まったコンサートなどのチケットの手続きする人が並んでいる。もうすでに会館の公演スケジュールは一年以上先まで埋まっているとのこと。旧市民会館にあったスタンウェイのピアノはストリートピアノとして、弾き手を募集している。

大ホール(グロービスホール)の 2000 席は圧巻、舞台も広く車イス席も最大 26 席設けてある。座席は疲れにくいエアクッション、これは長い時間座ってみたいとわからない? 壁は梅の花をイメージした音響反射板だ。

2 階の展示室は開館記念事業として 7 月 2 日から 17 日まで入場無料で「水戸の風」と称し、水戸美術家連盟の方々の作品(日本画・庸が・彫刻・工芸美術・書・写真・デザイン)が展示され、鑑賞することができる。南側のガラス張りの部屋は調理室、音楽室、工作室など多様なスタジオが 1 時間単位で利用できるという。

3 階のフロアは大会議室、中小会議室、4 階は中ホール(ユードムホール)482 席、東側の和室は水屋付きで茶室の設えが整っている。22 畳の板の間の先には屋上庭園が広がり、アートタワーが見え「ビュースポット」である。北側の小ホールは大ホールの舞台と同じ広さを持ち、壁面はガラス張り、ダンスの練習やリハーサルも可能です。イスを並べるとピアノの発表会などにも使える。水戸の宝ものの誕生に一ブラボー



アートタワーを臨む

## 人生100年をどう生きる?

—樋口恵子さん老いを語る—

年を経て 我もなりたし <sup>びすけ</sup>と <sup>と</sup>微助っ人

日本人の平均寿命は女性 87.57 歳 男性 81.47 歳(2021 年厚労省統計)です。

人生 100 年と言われる時代を生きる{初代}を自任する「高齢社会をよくする女性の会」理事長で評論家の樋口恵子さんは朝日新聞の特集紙面に何をするにもヨタヨタヘロヘロの世代を「ヨタヘロ期」と命名して「老いるショック」の現実をユーモアを交えて発信しています。——これまでは「老いの入り口」「かりそめの老い」—今では「本物の老い」がやってきたと語っておられます。

『石や段差につまずいて転ぶのが 70 代、黙って立っているだけでふわーと転ぶのが 90 代』

—それが「ヨタヘロ期」なんです!!!

最近では 80 代 90 代の「ヨタヘロ期」を生きる人が急激に増えており、平均寿命と健康寿命の差は男は 9 年、女は 12 年、非健康寿命は女の方が 3 年も長い。「ヨタヘロ」になる人は圧倒的に女が多い。

—これはゆゆしき問題です。

—「ヨタヘロ期」を生きる高齢者の課題として—「最大の問題はコミュニケーション。70 代までは友達同士の往来が盛んですが、80 代になるとお互いに出歩くのが難しくなってきます。

「ヨタヘロ期」になる前に **ICT** (情報通信技術) の活用能力をお互いに身につけておくことが大事だと思うようになりました。—これからは **SNS** やオンライン会議などに対応しなければいけない。ということです。「高齢社会をよくする女性の会」はデジタル化対応について個々の会員さんにお任せしようということでしたが、高齢化は多様な障害者が増える社会であって、その個性、多様性に対応したコミュニケーションツールが必要だと。デジタル化を毛嫌いせずに受け入れようと。!方向転換!!

「ヨタヘロ期」の世代はまだ社会参加したい!まだ身体は動くから、何かお役に立つことがあれば—そういう気持ちで『微助っ人』(びすけと)終末の時まで社会参加する市民のひとりでありたい。

編集後記：コロナ禍により、閉塞の街中では 5 類移行になって 1 ヶ月が過ぎました。未だマスクを離せない人が主流を占めているようですが、ゴールデンウィークの人出から見ても、人々がいかに自由な環境に飢えていたか窺い知ることができます。その一方でこの 3 年間、人生の節目を様々な形で葬らなければならなかった人たちが多くいたことも後世への伝言として忘れないでおきましょう。(C.K)